

令和4年度 清須市観光・産業きよす会議

日時	令和5年2月9日(木)14時～15時30分		場所	市役所北館2階 第1・2会議室
出席者	委 員	千頭 聡 委員（日本福祉大学 特任教授）【座長】 鈴木 健司 委員（日本福祉大学 准教授）【副座長】 後藤 鈴明 委員（清須市観光協会 会長） 山田 宗宏 委員（清須市商工会 副会長） 渡辺 修 委員（名古屋鉄道株式会社 須ヶ口駅長） 白井 りつ子 委員（株式会社JTBコミュニケーションデザイン コーポレートソリューション部 プロモーション第一事業局 営業第一課） 石田 隆 委員（清須市 市民環境部長）		
	清 須 市	事務局（市民環境部産業課）		
欠席者	委 員	大橋 正幸 委員（中日信用金庫 業務推進部長）		

1 開会

事務局

定刻となりましたので、令和4年度 清須市観光・産業きよす会議を開催します。私は議題に入るまでの進行を担当いたします清須市役所産業課の杉野森です。よろしくお願いいたします。着座にて進行させていただきます。

それでは、次第の「1開会」といたしまして、清須市市民環境部長の石田より、一言ごあいさつを申し上げます。

石田委員（清須市役所市民環境部長）

清須市役所 市民環境部長の石田です。

本日はお忙しい中、「観光・産業きよす会議」へご出席くださいまして、誠にありがとうございます。

こちらの事業は、国から地方創生推進交付金事業として採択を受けまして、令和2年度から3年間の事業としてスタートしました。今年度が当初計画の事業最終年度ということでございます。そこで、本日の会議では、まずこれまでの成果報告などをご説明させていただきます。

おかげさまで、「観光で地域が潤う仕組みの構築」という大きな事業目標を達成するためのツールは予定通り完成しました。KPIで掲げた目標値につきましては、コロナ禍での非常に厳しい時期だったということもございますが、一つだけ、達成できなかったKPIがあります。それ以外は順調に達成できる見込みです。

委員の皆様におかれましては、これまでのご指導に改めて感謝申し上げるところでございます。

また、ただいま申し上げましたKPIの未達成部分、それからこれまでの取り組んできた事業の見直しを通じまして、効果が不十分な分野については、継続して事業を進めていく必要があると思っておりますので、今のところ予定ではございますが、国の支援を再度受けて本事業の一部を2年間延長していきたい考えでございます。

これらのお話については本日の議題でございますので、この後、担当から詳細についてご説明させていただきます。それぞれ皆さんのお立場から忌憚のないご意見を頂戴できればと思っております。

最後に、少し宣伝になりますが、今年度さらに来年度においても、プロモーションをしっかりと促進していくことが重要だと思っております。特に今年は大河ドラマ「どうする家康」の放送が始まりまして、ちょうどこの前、清須同盟の話題が出てきました。とかく家康というと、岡崎、浜松、静岡との繋がりが知られていますが、実は清須もかなり繋がりがありまして、1例を申しますと、先ほどの清須同盟もそうですが、関ヶ原の戦いから家康が凱旋した道が美濃街道ということで、後に吉例街道と呼ばれるようになったという話もございます。

また美濃街道の西枇杷島地区には、徳川家康の命で青物市場が開設されまして、これがやがて日本三大青物市として江戸時代に発展したという歴史もございます。清須と家康との繋がりについては、なかなかご存知ない方も多いと思います。

3月24日金曜日から30日木曜日まで、名古屋駅のコンコースで、PRブースを出展させていただきますので、大河ドラマを含め清須市をPRします。皆様方も大変お忙しいと思いますが、何かの機会にお立ち寄りいただければと思っております。

本日は、よろしく願いいたします。

事務局

それでは議題に入る前に、前回、対面式で開催しました令和2年度の会議以降にご就任いただいた4名の委員をご紹介します。

この後、事務局から、お名前と簡単なご紹介をさせていただきますので、委員の皆様におかれましては、私の方からご紹介した後に、着座のままで結構ですので、一言ごあいさつをお願いいたします。

まずお1人目でございます。本日の副座長をお務めいただく日本福祉大学准教授の鈴木先生です。先生は財政学や地方財政がご専門でございまして、本事業が始まった当初から、分科会の一つである産業部会のファシリテーターを務めていただきました。

ご当地グルメの開発やきよすフェスの開催スキームについて、その取りまとめにご指導いただきました。今年度は統合した分科会と当会議の副座長として、座長の千頭先生とともに協議の取り回しをお願いしております。それでは鈴木先生、一言、当初、自己紹介。

鈴木副座長

はい。先ほどご紹介いただいた日本福祉大学の鈴木と申します。よろしく願いします。このプロジェクトには、産業部会で主に参加させていただきました。後ほど部会の状況はご説明させていただきますが、非常に市民の方の清須愛がにじみ出ていて、とても面白い雰囲気の中で、和気藹々とかういっのをやろうといった意見が出ていました。

そのアイデアがうまく、こういう形に結実したということで、私も関わっていて、楽しい部会だったなと思います。また詳しいお話は、後ほどお話をさせていただきます。

事務局

ありがとうございました。続いて、お二人目は、名古屋鉄道株式会社から、須ヶ口駅長の渡辺様でございます。名鉄様におかれましては、清洲城信長まつり、尾張西枇杷島まつり等へのアクセス面など、本市の観光振興に多大なご貢献をいただいております。

それでは、渡辺様、自己紹介をお願いいたします。

渡辺委員

皆さんこんにちは。名古屋鉄道須ヶ口駅の渡辺と申します。

私どもの駅の仕事というのは、大きく分けて、列車を運行させる運転の仕事、それから旅行商品の販売という営業の仕事の二つがあるんですが、私はどういうわけか、ずっと運転畑一本で来てしましまして、なかなか旅行商品の検討することや、こうした観光の会議に出る機会がなかったんですけれども、去年の1月3日に前任の駅長から委員を引き継ぎました。コロナ禍ということで、なかなかお手伝いができなかったところが、少し心苦しい思いですが、これからもどうぞよろしく申し上げます。

事務局

ありがとうございました。続きまして、本市の観光まちづくり団体である清須市観光協会の後藤会長です。観光協会では、後藤会長のもと、本事業を通じまして、ご当地グルメ「清須からあげまぶし」の開発や新しいウェブサイトの供用開始に取り組んでまいりました。今年度の「きよすイルミ」の開催にもご尽力されまして、市や商工会とともに、観光まちづくりの牽引役として幅広くご活躍いただいております。それでは、後藤会長、一言申し上げます。

後藤委員

あらためまして、観光協会の後藤でございます。

前会長の加藤さんから引き継ぎまして、2年が経ちましたけれども、この会議には初めての参加となります。ちょうどコロナ禍ということで、こういう形で開けなかったことは残念でございましたが、初めてなので、勉強させていただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

事務局

ありがとうございました。最後に、当会議のオブザーバーとして、国内旅行業界最大手のJTBグループより、JTBコミュニケーションデザインの白井様にご参加いただいております。白井様には分科会にも委員としてご参加いただき、きよすイルミの検討では、参加型アクティビティの導入を提言いただくなど、今年度で施策にもご貢献をいただいております。白井さん、一言自己紹介をお願いします。

白井委員

JTBグループで地域振興に携わって参りましたJTBコミュニケーションデザインの白井と申します。この2年間、貴重な時間を過ごさせていただき、感謝しております。

また、個人的ではございますけれども、祖父母が清須に住んでおりまして、名鉄さんを使って旅行に行くのが好きだったなというのを今さらながら思い出しまして、こうしたご縁をいただき、感謝しております。どうぞよろしく申し上げます。

事務局

ありがとうございました。なお、地域金融機関の代表としてご参加いただいております中日信用金庫の大橋様からは、本日ご欠席の連絡をいただいておりますので、ご報告します。

それでは議題に入りたいと思います。ここからは座長の千頭先生に進行をお願いしたいと思います。先生よろしく願いいたします。

千頭座長

よろしく願いいたします。千頭です。考えてみたら、山田委員とも2年ぶりにお目にかかります。このプロジェクトは、まさにコロナともに進んできたわけですね。

今日は次第にもありますように、議題は2つあります。

一つは、これまでの3年間を振り返って、成果と課題を共有しようということと、二つ目は、今度、さらに重点的に取り組む事業にアドバイスをいただきたいという、2点です。では、まず、資料の方を事務局にまとめてご説明いただいた後で、2つのテーマについて、皆様からご発言いただければと思っていますので、よろしく願いします。

それでは、事務局から説明をお願いします。

事務局

(資料説明)

千頭座長

はい。ありがとうございました。3年間を振り返っていただいて、資料におまとめいただきました。そうしましたら、資料にもありましたように、今日の大きな議題としては、一つ目は、この3年間で積み残した課題みたいなことについて、それぞれのお立場でコメントをいただきたい。二つ目は、今後、重点的に取り組むに事業についてのコメントということです。

それでは、どなたからでもいいんですが、よろしければ、名簿順にご発言いただいてもよろしいですか。鈴木先生は最後にしまして、そうすると観光協会の後藤会長からとなりますので、後藤委員、よろしいですか。まず1巡目は、令和2年度から3年間の取り組みに対するコメントです。よろしく願いします。

後藤委員

私が事業を立ち上げる当初からこの会議に関わっていれば、もっと詳しく思いをお話することができたかもしれませんが、私が観光協会の会長に就いて、直接携わったこととして、役者さんと呼んでビデオ（ショートムービー）を作りまして、先ほど事務局からの説明にもありましたイルミネーションまでは、内容もよく分かっております。

NHKの大河ドラマが始まって、清須という名前もよく出てきて、ちょうど先週でしたかね、清須を舞台にした回の放送もありましたので、今、非常に注目されています。

そうした中で、データではお城の入場者が少ないということでしたので、今ふと思いましたが、イベント開催時にお城へ入場されずに皆さん帰られるのであれば、お城に入れば何か面白いことがあったらいいなと。

あともう一つ気になったのが、情報発信コンテンツの「きよスポット」ですか。役者さんと呼んでビデオを作りましたが、それはどのくらい効果があったかなということが気になっています。

役者さんを目の前で見まして、面白いなと思っていましたが、出来上がったビデオを見ますと、いまいち何となく臨場感が伝わってこないもんですから、皆さんの反響はどうだったのかなというのがちょっと気になったところでございます。

千頭座長

今の件で、事務局で何かデータをお持ちですか。

事務局

大体5分程度のお話で、全5話あるのですが、YouTubeの再生回数ベースでいきますと、やはり再生は1話がもっとも多い傾向でして、それでも数百件程度とあまり再生回数として力強い伸びはない状況です。

ただ、今年度改装した清洲ふるさとのやかたでは、一番奥に設置した大型のデジタルサイネージで毎時定刻に放送しております。観光客の方が自然と目に触れる映像素材、また、観光地としての演出に有効に活用させていただいております。

千頭座長

なるほどね。わかりました。ありがとうございます。

では名簿順でいきますと、商工会副会長の山田委員ですね。いかがでしょうか。

山田委員

はい。最初から参加しているので、しっかりと意見を言わないかんと感じておりますが、本当にコロナで先生ともお会いするのは久しぶりでして、ずっと資料なんかで、事業を見させていただいていました。

まず、いろんな事業をされた中で、例えば「からあげまぶし」ですが、当初のお店からは増えたり減ったりしながら、内容的には、なるべく食べに行こうと思って、ほとんど行ったんですけれども、どこのお店もかなり頑張っています。お店に入ると、必ず他のお客さんの何人かが、このメニューを頼んでいましたからね。

そういうところを見させていただいて、最初のところでビッグネームというか、元々清須発祥ですけれども、全国チェーン店さんが参加されたっていうのも大きいかと思えますね。それで、そうしたお店との比較で、ずっと地元で、それこそ、うちの商工会青年部の子たちとか、一緒に関わっているお店でも、コストパフォーマンスの兼ね合いを考えながら、それ以上のものを開発したので、チェーン店との値段の差があるんだけど、その金額をお客さんは喜んで出して食べていかれる。そういうことで、本当の意味でいい競争ができる場を作っていただいたかなと感心しております。今まで何か、清須に来ると何となくみんなふんわりとした感じの競争だったので。

また、きちんと外部というか、学生の方の視点を入れて、色々なところを探していただいてといった調査も、初年度に見させていただきましたが、地元の僕らが感じるいいものと、外の人が見ていいと感じるものは違うので、この辺は、やはり絶えず調査を続けていただけるといいかなと思います。

コロナがなければ、この3年間で、もっと一気にいけたんじゃないかなと思うんですが、これは後ほどの議題と重なっちゃったら、後で同じようなことを言うかもしれませんが、目標にあげられた清洲城の入場者数と観光消費の底上げということで、この入場者数っていうのは、清洲城へお金を払って入ってもらった人数っていうことですよ。以前から思うんですけれども、いろんところで清洲城の入場券を無料で配ったらお客さんは入ると思う。

だけど、それで人を集めても、お金の落としどころがどこかなっていうのもっと明確にしてもらうことが必要ですね。それが、今の飲食店だけではちょっと足りないの、そのバージョンアップしたのも含めて目標を設けて、何を何%伸ばすとかですね、もっと個々に細かく区切って目標値を書いた方が、やりやすかったのかなと思いました。

今年でも思ったんですけれども、ただコロナの中でも、本当は頻繁に密に集まって話をしないと、商工会の活動でもなかなか話が進まない。観光協会会長の後藤先輩もそうですけれども、会ってお話をするという事は、ものすごく強いですよ。ですから、それができないコロナの間のお話でしたので、実際にはなかなか思い切った行動ができないといった状況だったと思います。最近、それがちょっと明けてきて、その辺が変わるといいのかなと思っています。すみません。ちょっと長くお話をしました。

千頭座長

いえいえ。ありがとうございました。

目標値のお話が出ましたね。もし事務局から何かありましたら、後ほど伺うとして、続いて名古屋鉄道の渡辺さん、ご自身のお立場で、この話を聞かれて何か思うところがあれば、どんなことでも結構です。よろしくお願いします。

渡辺委員

フォローしていただきましたけれども、なかなか皆様のような発想がないものですから、自分も休みなんかでいろんところへ遊びに行くのが好きですので、お客さんの立場で、どういうところだったら行きたいのかっていうお話をしたいと思います。

たとえば、伊勢神宮のおはらい町だとか、犬山城の城下町だとか、それから、円頓寺もちょっと盛り上がってきております。そういうところ行っているいろいろ見るのが好きなんですけれども、大体同じことやっていると思うのが、食べ歩きですね。必ずどこでもワンコイン程度でやっていますので、そういうことができれば、集客につながるのかなという気がします。

それから KPI で清洲城の入場者数なんですけども、下のパイが増えれば自然と入場者数も上がると思います。もともと清洲城だけに来ようという歴史の大好きな方もみえますけれども、特にコロナ禍にあって、おまつりを待っている方がたくさんみえます。

前回の西枇杷まつりは、今度のリハーサルのような形で、山車運行だけをやられたんですが、その同じ日に熱田神宮の方では熱田まつりが開催されていて、こちらでは大々的に花火を打ち上げていまして、出店も全部そろえてということで、これまでにないほどのにぎわいだったそうです。実は神宮前の駅長といろんなことを話したら、もう大変だったと、いつ終わるのか分からないような状態で、危険なこともいっぱいあったんですけれども、みんなお金を使いたがっているよねという話が出たんですね。だから今はチャンスでもあると思いますね。

山田委員も言われたように、これからは、顔を付き合わせていろんなことが話せると思いますので、これからも期待しておりますし、ご協力もさせていただきますので、よろしくお願いします。

千頭座長

はい。ありがとうございます。ではオブザーバーの JTB の白井さん、観光部会も踏まえて、お願いします。

白井委員

はい。参加させていただきました率直な感想を述べさせていただきます。

まず清須市に行ってみたくなるようなコンテンツづくりにおいて、清須市の資源の洗い出しを皆さんで丁寧かつ活発にネガ・ポジ両方のお話をされて、ホームページや冊子にまとめ上げたっていうのは、とても議論を尽くせたと評価すべきことだなと感じております。

また、清須からあげまぶしや、きよすイルミ 2022 についても、歴史という背景を大切にしつつも、バズるとか映えるというコンテンツに昇華させられたということは、本当に素晴らしいことで、市の皆さんたちの実直な進行の元、市民の方を巻き込んだのは、素晴らしいことだと思いました。

課題として、留意すべき点に関しましては、継続的な情報発信というところですけども、今ティックトックが流行っておりますので、こちらの活用も検討されていくのではないかと思います。ティックトックは、Z 世代から広まったコンテンツですが、利用者は今も拡大しておりますので、また新たな層の認知集客につながるアルゴリズムを持った SNS でするので、ご検討いただくといいのかなと思います。

今、皆さんのお話を聞いていて、一つお城の入場者数について、申し添えたいと思うんですけども、お城の中の展示はリニューアルされておりますので、非常にいい展示だと私は思っております。入場者数が伸び悩んでいる原因というのは、通常はお城の展示って博物館みたいで、歴史好きでなければ面白味のない展示が多いんですよ。それにちょっと足を引っ張られて、清洲城もきっとそうなんだろうと思われて、入場者数につながっていないんじゃないだろうかと思います。展示内容自体は、とても面白いものだと思いますので、情報発信の中で、お城の内部展示がどうなっているのかを含めて発信していくと伸びるのではないかなと。今の展示も素晴らしいと思います。以上です。

千頭座長

はい。ありがとうございました。では鈴木先生からは、どうでしょうか。

鈴木副座長

はい。まず、私の方からは産業部会を振り返りながら、成果と課題についてコメントさせていただければと思います。まずですね、産業部会ですが、集まった方々が非常にユニークな方が多くてですね、和気藹々とできました。結構、鋭いっていうような発言も多くてですね、そういうところから始まったと。

皆さん清須市が好きっていうのはもちろんそうなんですけど、状況をまず共有しようというところからも始まったんですね。清須市のイメージがどうだですとか、名古屋から思いの外近いねですとか、あるいは、ちょっとこういうところが暗いねですとか。

それで、イベントなんかは商工会さんも実は色々やってたんですよね。それが途中で終わってしまったということで、なぜ終わったのかというと、実は市の協力が云々といったお話も出まして、非常に面白い議論ができました。中にはもっと尖ったことをやってもいいんじゃないかというお話から、例えばeスポーツの大会を清洲城でやってもいいんじゃないかといった意見も出てきました。

意見が色々出された中で、若い層っていうんですかね、いわゆる子育て層にあまり魅力がないってところから、そのあたりをどうやって取り組んでいこうかという話から、やはり食べ物でしょうという話になったんです。それでスイーツなり、どういうものがあるのかという話になってきたところで、ランチメニューという話になった。会議では、なかなか具体的なメニューに絞りきれなかったんですが、その後ですね、飲食店の方々にご意見をいただいて「からあげまぶし」につながります。

そこでもやはり清須らしさというのを考えなきゃいけないということで、これも色々何が清須らしいんだろうということもあったんですが、愛知名古屋の清須らしさということで、必ずしも清須産によるものだけで考えなくてもいいと、そういうところまで議論が進んでいきまして、そういうのが結実したのかなと思います。

一方で、企業さんの方もですね、なかなか企業同士が接触することがないので、まずはそこから始めて、そのあと企業間取引ですかね。そういうところにつなげていけばというようなところから、議論が進んだということです。

そのおかげで「清須からあげまぶし」というのがこういうふうにできました。また、それまでに商工会さんが行ったことのあるイベントだったりですか、市民団体さんのマルシェをやっていたりといったことを温故知新で集約して、経験やスキルもある程度あるので、そういうところから作り上げていこうということで「きよすフェス」の形ができました。このことは、こうした機会がないとできなかったのも、その意味でも、この事業は非常に成果があったというふうに考えております。

その後ですね、やはり一番苦労したのが、どういうふう集客をするのかということ。これには観光部会で作ったまち歩きのマップですかね、そういうのを一緒に合わせたらどうだろうとか、グルメスタンプラリーみたいなものにしたらどうだろうと、色々アイデアが出てきて、いざスタンプラリーをするには、どういう方法がいいのかということ議論できました。

ただ、残念なのは、コロナだったので、きよすフェスの食べ物ブースでは、実際にそこで食べてもらえればいいんですけど、コロナの最中だったので、ちょっと持ち帰り限定にした方がいいんじゃないかと。

もう一つあったのがですね、こういうイベントをするときには、清須って元々いくつかの町で合併したので、ちょっと温度差があるらしいということ。これを会議の委員の方からお聞きしました。そういう温度差もなるべく解消するような方向でやればいいのかということで、まずはたくさんの市民に来てもらえるように考えてはどうかということになりました。ですから、清洲城の入場者数が減っているという課題で、これ実はですね、コロナの影響ももちろんあるんですが、イベントに来た方の多くが市民の方ですから、市民の方が、お金払って清洲城に入場するかって言うかということ、ちょっとここが難しかったのかなと思います。

ですから、これから軌道に乗って、市外の方が来るようになると、もう少しこれが増えていくのかなと期待しています。先ほど白井委員がおっしゃられたように、展示物は

非常にいいので、それをうまく見せながら、市外の方が来たときには、中に入っていただいて、楽しんでもらうということにしていればいいのかと思います。

ですから、そのためやはり PR が重要なんですが、ちょっと PR については今後の課題かなと思っています。それで、おそらく清須市さん自身が市民アンケートで「市の情報をどうやって取っていますか」ということを聞かれているかもしれませんが、そこをさらに丁寧に聞いてみるのもいいと思います。ティックトックを使うのもいいんですが、年齢別にどういう媒体から市の情報を得ているのかというのは、これは多分、このプロジェクト以外でも、市の施策に使えらると思います。

あと、すみません。これは別件で個人的な感想なんですが、私の授業で観光情報をどうやって仕入れているかっていうことを学生が学内アンケートを取ったんですね。すると、意外にですね、電車の広告や駅のポスターとかって、見ているんです。多分ふとした時に見るんでしょう。ですから駅って結構大きくて、学生の意見で面白かったのが、駅を通過する時にも一応見ているらしいですよ。ところが、そこの広告か何かを見たいだけじゃなくても、こう風景が流れているので目に入らないと。だから何かイベントをする期間だけでいいので、「イルミをやっています」とか、長い横断幕で早くても目で追えるようなものをつけるのも面白いのかなと思いました。すみません、これは私の感想です。以上です。

千頭座長

はい。ありがとうございます。私からも少しだけお話をします。

鈴木先生は産業部会、私は観光部会に参加させていただきました。観光部会は、年齢層も幅があって、大学生も含む若い方々と、年配層で歴史のガイドをされてきたような方々と、いわば2つの層がありました。そこが微妙に噛み合っていたり、噛み合っていない感じもありつつ、本当にたくさんのご意見が出ていました。

2つほどありまして、先ほど YouTube の再生回数があんまり上がっていないというお話がありましたが、YouTube へ誘導するために、他の SNS をどう活用するかですね。ツイッターやフェイスブックをすごく使っているっていうと、最近は年寄りだと思われるみたいなので、インスタでもいいんですけども、この YouTube への誘導という意味で、SNS の活用はあり得るのかなというふうに思います。

ただ、先ほどご説明の中で、お手元の資料で言えば資料3の3枚目、きよすフェスの時のアンケートで、市内の方が多くて、市外の方が少なかったという結果がありましたけれども、先ほどのご説明では、これは課題だという整理でしたが、確かに課題なんですけれども、やはり市民の方が好きではないイベントなり、市民の方が食べたいと思わないご当地グルメでは広がらないので、そういう意味では、まず第一段階として、市民の方にしっかりと浸透を図ってから、第二段階として、市民から口コミで広げてもらうんだというふうに前向きに捉えた方がいいのかなと思いました。

うちの学部にも清須在住の学生がいるんですが、彼女はからあげまぶしの量が少し多いかなと言っていましたね。でも美味しかったと言っていましたよ。ココイチさんに参加していただいたのは、これすごく意味がありますよね。全国チェーンですから。

それで、もう1点は課題ではないんですけども、同じく資料3の3枚目のアンケートの結果の中で、きよすフェスで最も気に入っている要素は、からあげまぶしの販売が19人で、産業ワークショップは2人。観光部会でも、この産業ワークショップの話は

出まして、皆さんすごく頑張ってやられていたと。

それで、ちょっと気になっているのは、気に入っている要素に産業ワークショップを上げた方が2人だけだったのは、ちょっとだけ寂しいなど。多分主催された方にしたら、私以上に寂しく思われたと思いますけれども。

本業とのつながりが必ずしも明確じゃないというご意見もあったようですけれども、これ、うまくやればですね、実はすごく人気がある企画ですよ。だから、これはやはり反響が少なかったからやめちゃうというよりは、何か盛り上げるためのアイデアを出して、続けていけると、すごくいいなと思います。

ちょっと雑駁ですけども、ありがとうございました。

今の時点で、事務局の方からこれまでのご意見に対して、ご発言があればいかがですか。よろしいですか。

はい。そうしましたら、さらに大事なことは、これからどんなところに力を入れていくべきかということで、手元で言えば資料5ですね。ここに記載されている内容に直結するご意見でもいいですし、もっと広くこの事業をスタートできたら、さらに発展させるためにどんなことが大事かなという視点でもいいんですけれども、もう1回ご発言いただければなと思います。

何か先ほどと逆っていうのもあれですから、また同じ順番でよろしいですか。では、後藤委員お願いします。

後藤委員

きよすイルミの件ですが、今年は思ったより結構反響が多くて、ちっちゃいお子さんからご年配の近所の方まで、面白いと、また見に行きたいという声が多かったです。ただ、その中で、プロジェクションマッピングが見にくかったという声もいただいています。もう少し鮮明で見やすい画だったら、なおよかっただろうということです。

それから、新しくデザイン学校のお知恵を借りたり、提案をもらったりということで、これはいいことだと思います。やはりプロジェクションマッピングを映して、それで終わりというより、色々な方のアイデアが入って、造形物や光といった若い方の感性を取り入れることは、とても大事だと思います。

私も少し案を持っておりまして、夜に照らして、映えるものというのと、ホテルなどで、竹の作り物の装飾が多くて、それも一箇所だけでなく、色々なところでやっていきますので、それを見て、私もちょっと竹を触るのが結構好きですので、切り込みを入れてこんな光が出たら面白いとか、お城の中で、そういったものがあちらこちらにあったらいいなと今回のイルミをやる時も、そんなことを考えていました。

今回、テレビで取材なども結構やっていて、今日もテレビでやっている、またやっているということで、本当にすごい注目度だなと思いましたので、それをさらに良いものにしていったら、もっともっとお客さんが増えるではないかという気がしています。

千頭座長

はい。ありがとうございました。では山田委員、いかがでしょうか。

山田委員

はい。清須以外の方が、清洲城へ来るようにするために、清洲城の入場券を招待状のように配るとかですね、例えば、名古屋駅の名鉄さんのところに清洲城の入場券を無料で配布する場を設けるといったことをすると、ちょっと行ってみようかなという人もいられるだろうと思います。

ただ、そこで清洲城へ来てもらうだけでは意味がなくて、何かお金の落としどころがないといけないと思います。なんでこんなところに清洲城の入場券がいっぱい置いてあるんだろうと思って、行ってみたら、なるほどこういう仕組みかということで、広げていくんだっていうことに繋がるような思い切ったことができないのかなとずっと思っていました。企業にもお金を出してもらって、企業にもこの仕組みをPRのために使っていただくとかですね、何かできないのかなと思いますね。

それと先ほど観光協会の後藤会長が言われたイルミの上映時間ですね、これはもう素晴らしいですね。あれは15分くらいの間隔でしたかね、時間設定がすごく良く、途中から見たお客さんが、もう終わっちゃったと思っても、少し待てばすぐに始まるので、この間隔がちょうど待てる時間なんです。このあたりは、専門の事業者の方が決められたのか、事務局の皆さんで決められたのか分かりませんが、素晴らしいと思いますよ。

イルミを見てみえるお客さんたちが、本当にすごく楽しそうで、心豊かな時間を過ごしてみえる。そして、何もお金を落とさせずに、心を豊かにして帰してあげる清須市は素晴らしいなど。僕はもう少しその喜びの一部でもいいですからお金を落としていただけたところを必ず用意して開催できないかなと思いました。

西枇杷のおまつりは、ものすごい人数が集まりますが、その次に多いのが、清洲城信長まつり・産業まつりですから、きよすイルミのスタートをそこに合わせていただけたらというお話であれば、お金の落とし所で集客効果を拾えるような、また継続できるようなものにできるといいですね。

その時に何か割引券や金券、例えば、からあげまぶしのお店で使えるものとかですね、お客さんがちょっと早めに清須へ行って、からあげまぶしを食べてからイルミへ行くのだとか、イベントと観光消費を繋げられる何かを作戰としてできればといいのかなと感じました。

千頭座長

はい。ありがとうございます。では続いて、渡辺委員、お願いします。

渡辺委員

はい。山田委員も言われていた集客についてですが、ターゲットを一度絞ったところからちょっとずつ広げていくという方法もあるのかなと。名鉄でもこの前から取り組んでいるところで、鉄道ファンの方にターゲットを絞ったやり方をしているんですね。鉄道ファンの方しか集まってこないようなイベントを色々なところで開催したりしています。

それから、駅の方にもまだ貼ってあるんですが、普段売っていない硬券入場券、特に無人駅のは普段買えないわけですから、例えば二ツ杵駅や新川橋駅の硬券入場券でしたら、須ヶ口駅で買えますよと。こちらが会社の思っていたよりも、結構売れている

んですね。そこで、期間を延ばして、まだ販売中です。

このように、まずターゲットを絞ったところから始まって、口コミで広がっている。そして、硬券入場券というのは、日付を入れるんですね。その日付が誕生日であったりしたところをプレゼントとして贈るといったこともあるようで、普段は切符に興味のない人でもちょっとそういうことで、お買い求めいただいている状況です。

それから、鉄道を利用していただくためには、新清洲駅から清洲城までが見通せませんので、この動線上で、何か開発整備していただくとお客様も増えるのかなと思いました。

千頭座長

はい。ありがとうございました。硬券入場券は私も大好きです。

では、白井委員、お願いします。

白井委員

PR 目線からですと、学生さんと地域のコラボは、非常にメディア受けすると思いますので、ぜひ期待したいなと思っております。

1つ着目しているのは、学生さんたちが丁寧に作られる作品がですね、その後どうなるのかというところがございます。毎年新しいアート作品が作られて、展示されることによって、リピーターの方たちにも、毎年楽しんでいただけるという仕掛けになると思います。過去の作品も、どこかで保管も兼ねた展示スペースができるのであれば、そこで観覧料等を徴収して、美濃のあかりアートまつりはですね、常設展示と保管場所を兼ねた素晴らしい展示をしておられますので、そういった形で、作品を充填する仕組みが構築できれば、学生さんたちも気持ちよく制作ができると思います。以上です。

千頭座長

なるほどね。ありがとうございました。では、鈴木先生、いかがでしょう。

鈴木副座長

そうですね、アート・デザイン系学校の学生さんとのコラボは、非常に素晴らしいと思います。ちょっとあざといのですが、清須市以外の近隣市町の幼稚園や小学生に、竹筒アートを作ってもらおうと、多分それを見に親と一緒に来てくれますね。

夜になりますので、例えば、イルミを見る前に清須でごはんを食べましょうとか、あるいは清洲城に来たことがなかったので、お金を払って入りましょうみたいな流れがあるかもしれない。なので、市内の幼稚園ではなく、近隣市外へ作品を作ってもらえるようアプローチして、それを飾るっていうのも一つのやり方かなと思います。

プロモーションについては、資料だとざっくりとしか書いてないので、何とも言えませんが、あまり分散させずに一つのことをがつつりやった方がいいのかなと思います。金額的にあんまり色々なものには使えないのかなと思いますので、使い道を絞って、とりあえず、令和5年度はこれでいくんだという形でされたらいいのかなと思いました。以上です。

千頭座長

はい。ありがとうございます。

私は、まずは資料5の中で、この事業は地方創生推進交付金を使ってやっていたけれども、当初の予定の3箇年が終わって、さらに2箇年延長したいという市の意向があります。皆様のお話もあるように、劇的に今すぐに何かが変わったというよりは、変わるためのスタートラインにまさについたということだと思います。

これからが本番でもあると思いますので、その意味では是非とも、過去3箇年の成果の上に、さらに継続していただいて、より実りのあるものにしていくことが絶対必要かなと思いますので、そういう意味で、すでに国に申請されていらっしゃるようだけれども、ぜひとも、交付を受けていただいて、実施していただければすごくいいかなと思います。

あとはもう皆様のお話いただいた通りですけれども、硬券切符なんかは、結構面白いことをやっているところがあります。北海道は本当に周遊させるための仕掛けを毎年たくさんやっていて、一つはJR北海道が、硬券ではなく入場券なんですけど、北の大地の入場券とって、こんなでっかい券を90ぐらいある北海道中の駅で売っているんです。またそれが1日に2往復しかないような駅で、売っているわけですよ。

すごく面白いのは、実はJRに乗っても一日では買えないんです。その駅で降りてしまったら、次は8時間後にしか電車が来ないので、実際には車で回りながら入場券を買うということで、よくもこんなことを考えたなと思うんですが、発想変えてみたら、多分、そういう効果をねらって、わざわざ入場券を買いに北海道へ行っている方がきついているんだろうなと思うんです。ニッチなところでのアプローチも確かに面白いかなと思いました。

同時にスマホを使ったデジタルマップのスタンプラリーっていうのも、かなりいろんなところで、されるようになっていきます。これも集めたくるので、山田委員が言われるお金を落としていただくということとセットで、この周遊マップを活用できれば、すごくいいですね。

もう1点だけ、先ほど言ったことの繰り返しですけれども、多分皆様方が広く観光客にアプローチする方法はJTBさんをはじめとしてプロなんですけれども、あえて言うならば、やはり市民の方を媒介にした口コミっていうのもすごく大きいと思うので、是非とも市民の方に対して、今清須としてはこういうことを始めたんだと、だからそれを周りの方にも広げて欲しいという形で、市民へアプローチすることも、併せてしていただけたらいいかなという気がします。

そうすると、市民の方が「清須に遊びに来たら、からあげまぶしをぜひ食べにおいでよ」と広げてもらえる。これは結構強いと思いますんで、その視点も、必要かなと思いました。ありがとうございました。

そうしましたら、特にどうでしょうか。委員の方で、何か言い残された方はいませんか。他の方のお話を聞いて、これを言い残した、あるいは言っておきたいということがもしあれば。いずれにしても、この会議体は終わりですけれども、引き続き、当事者としてね、関わっていただく方がたくさんおみえですのでとは思っていますが。

岡崎に負けないようにね。なんかマスメディアを見ていると、岡崎は最近本当によく出てくるんですね、ちょっと悔しいなと思うんですね。

何か事務局から、皆様方の今のご発言を受けて、何かもし我々に返していただくコメントがあれば、いただきたいのですが、どうでしょう。

後藤委員

国の方に申請中の事業ですが、これは採択される見込みということでしょうか。

事務局

はい。採択の見込みでございます。

後藤委員

はい。ありがとうございます。

千頭座長

色々なところでやはりコロナのダメージがあるということで、国もやっているところですので、無下に断ったりしないのかなと思います。

はい。他に特にはよろしいですか。

石田委員

ちょっとだけよろしいですか。

先ほど産業ワークショップの話で、アンケートの人数が少ないというお話があったんですけども、アンケートのとり方も色々あると思うんです。私は実際に足を運んでみて、事業者の出し物の偏りは当然あるんですが、すごく盛況な様子でして、アンケートでは出ていないようなところもあるのかなと思いました。

会場を見ていてですね、アンケートの結果以上に盛況だったというのが、私の実感ですので、これは一言申し上げておきたいなと思いました。

それから、色々なご意見をいただいて、私も非常に共感する部分がありまして、先ほどの駅の広告のお話で、案外と若い人は、ポスターを見ているよというお話ですね。

これは前から言っているんですけども、以前イベントをやった際に名鉄名古屋駅にポスターを貼らせてもらったら、すごく集客効果がありました。私はポスターが原因だと思っていますが、本当に嘘みたいに集客できまして、やはり宣伝というのは、SNSやホームページもそうなんですけれども、視覚的な部分っていうのは非常に重要なというふうに思っています。やはり自然に目に入るっていうのは、非常に大きいというか、今回もちょっとやったらという話をしたんですけども、お金やスペースの話が多分あったらと思うんですが、プロモーションは先ほどお話があったように、予算があるかという、そうでもない、どこかでまとめてということであれば、そういうところをちょっと注意してやっていきたいなと思います。

それからもう一つお話があったのが、千頭先生がおっしゃっていただいた、市民の方の口コミっていうのは非常に効果があると思っています。これも実感しているのが、コロナ前にですね、清洲城でひな人形の展示をやっているんですけども、これは市民のボランティアの方にやっていただいております。

これは非常にいいことで、市民ボランティアの方にやっていただけると、自分たちで活躍してお客さんが来ると、それがおもてなしになります。その時に京都なんかで若い

女性の方が、着物を着て町を歩くっていうことが流行っていました。当然ひな人形なので、お母様方とお子さんが来ますので、古着を集めてですね、着たお子さんに無料で着物を着させてあげたんです。ひな人形の前で写真を撮るわけです。これは別に何の宣伝をしたわけではないんですが、無料なので、すごく人が来たんですよ。何でこんなに来るのかなと思ったら、清洲城へ行けば無料で着物を着て、ひな人形の前で写真が撮れるとお母さん方の口コミで広まったようです。お母さん方の情報網ってすごいなと思ったんですけども、そういうことって非常に大事だなあと実感しました。

口コミが大切というのは、まさに先生がおっしゃる通りだなと思いますので、そういうことも心がけてやっていきたいと思っております。以上でございます。

千頭座長

はい。ありがとうございます。駅の広告という意味では、名古屋市営地下鉄の1編成を3日借り切るっていうプランがありまして、意外と安いんです。定価があるかどうかは分からないんですが、100万も200万も必要なくて、ウン十万でできるんですね。1輛ではなく、1編成を3日間くらい車内全部の広告ですね。安くはないんですが、意外と高くもない。

石田委員

思ったより安く感じました。僕は、本当は車両のラッピングをしたかったんです。でもあれは数百万なので、これは到底無理な話ということで、そこは私の夢で終わっています。

千頭座長

城北線だったら、できるかもしれませんね。

後藤委員

岡崎が名鉄さんのラッピングをやっていたね。

千頭座長

城北線の硬券と名鉄さんの硬券と清洲城とか、何か面白い組み合わせをして、思わぬところから人を呼んでくるっていうのがあり得るかもしれませんね。

はい。それでは、本当にありがとうございました。一応我々の観光・産業きよす会議としての意見出しとしては以上なのかなと思いますので、後は事務局にお返しします。

事務局

ありがとうございました。本日の会議は過去3年間の振り返りと、今後に向けてということで重要な会議でした。委員の皆様からたくさん貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございました。また、座長の千頭先生からも、これからが本番というお言葉をいただきましたので、身が引き締まる思いです。

それでは、次第の「3閉会」ということで、市と観光協会の事務局を代表いたしまして、産業課長兼観光協会事務局長の梶浦より一言ご挨拶申し上げます。

梶浦課長

梶浦でございます。3年間にわたり皆様方の貴重なご意見、ご指導の元、事業を進めて参りました。振り返りますと、令和元年度に計画作りがスタートしまして、その頃はコロナなんてなかったので、KPIをはじめ、しっかりとした計画と目標値を掲げて、国へ計画を出しました。

思い出しますと、最初はこんな事業を本当にできるのかなと心配で、3年間やってきましたけれども、ここにいる職員をはじめ産業課の職員一同が、本当に一生懸命やってくれまして、多分これは、うちの職員がいなければできなかつたと思っています。

皆やりがいを持って取り組んでくれまして、その中でも、色々な思い出がありますが、私なんかも、おそらくもうこんな感情になったことはないぐらい感動したこともありました。そういう意識で皆もやってくれたと思います。

私もこの事業を始めた時から申し上げていますが、清須は観光のまちではないと思っております。勿論、観光も大きな一つの柱ではあるんですが、やはり産業のまちです。中小企業の方が元気よくご商売をやっていただくためのまちづくりを目指してやってきたつもりです。その中で、先ほど部長の方からも申した通り、産業ワークショップの方はですね、これは本当に色々なことを考えたんですけれども、コロナでできる限り最小限で事業を行うということになってしまったんです。

本当の最終的な目的地は、そういった地元企業の方に参加いただいて、その中で連携、コラボなんかをしていただいく中で、新しい商品や事業を始めていただけたらなっというところが、本当の最終的な夢として考えていました。一つ宣伝になります、実はいくつかもうそうしたお話が出てきております。ワークショップで出展いただいた企業さん同士が、お互いに顔見知りになって、今度工場へ見学に行ってみるよっというお話を、ちょっとはたから見ておまして、小さなことですが、本当にうれしかったです。今後こうしたワークショップを継続的に開催できるかは、少しと難しいかもしれませんが、職員全員が、そういったことを大事に考えてやってきました。観光も大事ですが、中小企業の皆様のご支援を引き続き頑張っていきたいと思っております。

また皆様方には、今年度で一応会議としては最終ということになりますけれども、また一生懸命外部に向けて情報発信して参りますので、何かお気づきの点がありましたらご連絡いただいて、叱咤激励やご意見を頂戴できれば、取り入れていきたいと思っております。まずは3年間の成果としては、こんな形で終わりますけれども、引き続きもう2年間頑張っていきたいと思っております。

まずは今日の最後に、これまでの感謝の言葉を申し上げたいと思っております。本当にありがとうございました。

事務局

ありがとうございました。それでは、以上をもちまして、令和4年度観光・産業きよす会議を終了いたします。本日は長時間にわたりまして、ありがとうございました。

お気をつけてお帰りください。ありがとうございました。

署名委員：後藤 鈴明

署名委員：渡辺 修